景況調査

（平成24年10月～12月期）

平成24年10月～12月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数（景気動向指数）を用いて示している。

平成24年10月～12月期の調査結果では前回調査から大きな変動が見られない。業況が1.2ポイント下降、売上高は6.5ポイント上昇、採算（経常利益）は横ばい、資金繰りが6.1ポイント下降であった。

〈業　況〉

業況DIは▲22.7と前回調査に比べて1.2ポイント下降であった。業種別では小売業は横ばい、製造業は9.1ポイント下降、建設業も10.0ポイント下降、サービス業は13.7ポイント上昇、卸売業は33.3ポイント下降となった。

1～3月期見通しは全体で5ポイント上昇となっているが、製造業は20.9ポイント下落となっており、業種別ごとで格差があるようである。

〈売上高〉

売上高DIは▲22.4となっており、7.5ポイント上昇している。業種別では、小売業が5ポイント下落、製造業が18.2ポイント下落、建設業が9.1ポイント下落、サービス業は38.7ポイント上昇、卸売業が16.7ポイント上昇となっておりサービス業、卸売業の上昇が全体の値を引っ張る形となった。

1～3月期の見通しは、▲19.4となっており、小売業、製造業、建設業が上昇見通し、サービス業、卸売業が下落見通しと10～12月期とは正反対の見通しになっている。

〈採算（経常利益）〉

採算（経常利益）DIは▲37.3と前回調査と同じ値になっている。業種別には小売業が5ポイント上昇、製造業は横ばい、建設業は18.2ポイント上昇、サービス業が12.6ポイント下降、卸売業は10ポイント下降となっている。

1～3月期の見通しは、全体で▲37.9と10～12月期とほぼ同じである。しかし、製造業は18.2ポイント下降、建設業も18.2ポイント下降見通しとなっており、サービス業は19.3ポイント上昇している。小売、卸売業は横ばいである。

〈資金繰り〉

資金繰りDIは▲15.9と前回調査に比べて6.1ポイント下降している。業種別では、小売業が29.8ポイント下降、製造業が横ばい、建設業も横ばい、サービス業は22.3ポイント上昇、卸売業が36.7ポイント下降であった。

1～3月期の見通しは6.1ポイント上昇である。小売業が、製造業、サービス業、卸売業は上昇見通しであるが、建設業は下降見通しになっている。

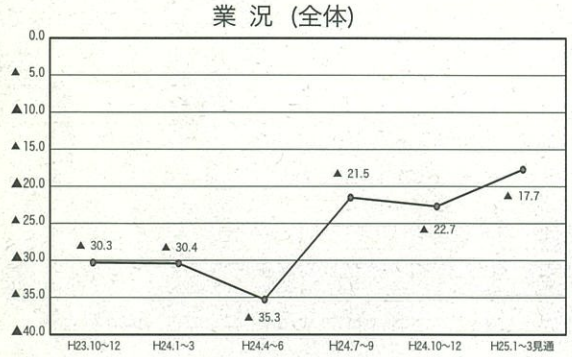
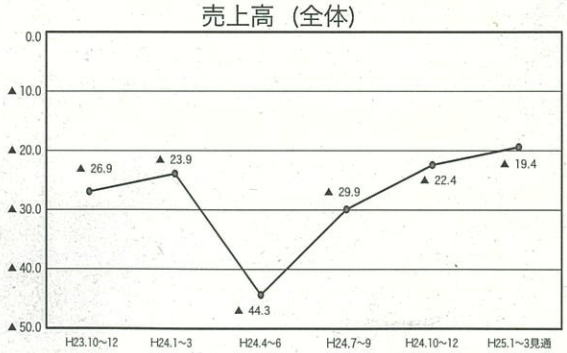
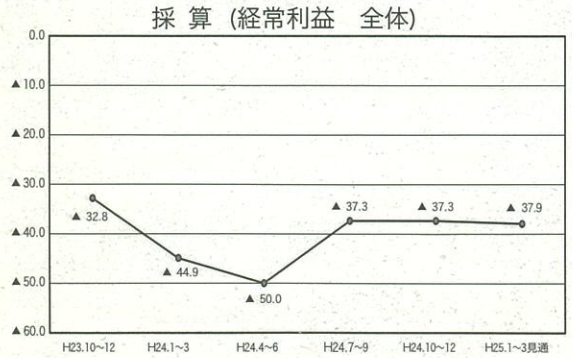
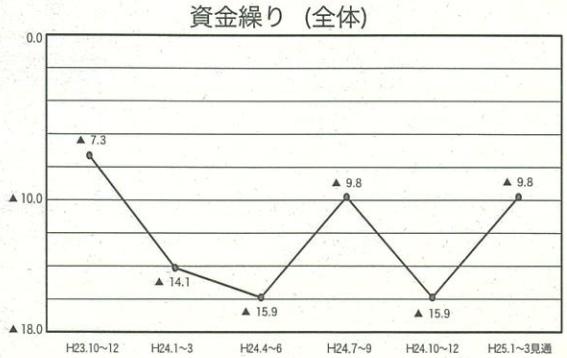
〈その他の意見〉

・大口電圧受電の電気料金が19.2％上昇、平成25年4月より値上げと関西電力より電話があり、今後の対策を考えている。

・アベノミクスという名のもと景気回復を謳い期待されていますが、国債の大量発行になる金利の上昇、円安によるエネルギー価格の高騰などによるハイパーインフレ等アベノリスクにならぬようお願いしたい。

・お客様の購買意欲が少ない。できる限り安いものを望んでおられる。不用不急の小売店は厳しい。

・自分さえよかったらと考える商人が多過ぎる。情報過多（インターネット、スマホ他）で消費者の買い物行動が偏っている。先行きは暗い。

・新政府の矢継早な対策でムードは明るくなっているが、今まで通り子孫の質草を担保としての経済政策や消費増税を考えると、参議院選挙まではよくてもちょっと不安をぬぐえない気がする。

・アベノミクスに期待します。